

提出済み要望書②-1

2013年5月12日

全政党 代表

国際婦人年連絡会

橋本 葉子

世話人 實生 律子

山口みつ子

第23回参議院議員選挙にあたっての公開質問状に ご回答のご依頼

—女性の政治参画を促進するために—

国際婦人年連絡会（1975年結成：全国組織36女性団体）は、国連に呼応し、「平等・開発・平和」の実現に向けて、37年間にわたり男女平等参画社会をめざして活動してまいりました。

昨年12月16日の第46回衆議院総選挙の結果、女性国会議員数は平成23年の96名から82名に減少し、方針決定の場への登用においても先進国にそぐわない状況です。

2012年10月の世界経済フォーラム（WEF）によるジェンダーギャップ指数は世界135ヶ国中101位となり、後退しています。

来日した際、IMFのレガルト氏は「女性が日本を救う」と発言し、また、UN Women前事務局長のバチェレ氏は「女性の政治参加を」と指摘しました。

政府は、第3次男女共同参画基本計画で「2020年をメドに指導的地位に女性の参画を30%に積極的に取り組む」としています。その達成をめざし、来る参議院選挙にむけて、各政党はどのような具体的方策をお持ちか、公開質問状をお願いした次第です。

政務ご多端とは存じますが、貴党のご意見をお聞かせ下さい。

ご回答につきましては国際婦人年連絡会の加盟団体はもとより、広くメディア等、各界にも周知させていただきます。

なお、ご回答は、5月22日（水）に当会の政策方針参画委員会が参上させていただきます。よろしくお願いいたします。